

|            |  |                    |   |
|------------|--|--------------------|---|
| ふりがな<br>氏名 | たにがき とおる<br><b>谷垣 徹</b>  | 都道府県<br><b>奈良県</b> |  |
| 所属/肩書      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良教育大学 ユネスコクラブ</li> <li>・奈良教育大学 学生企画活動支援事業「ESD 実践勉強会」代表</li> </ul> |                    |   |
| 私のESD活動    | <p>「持続可能な社会って？私たちには何ができる？」を<br/>小中学生と一緒に考える ESD 子どもキャンプの実施</p>   |                    |   |

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が行っているESD活動として、『ESD子どもキャンプ』と『ESD実践勉強会』の2つを取り上げます。

『ESD子どもキャンプ』とは、奈良市内のユネスコスクールなどから小中学生を招き、大学キャンパスや周辺の地域をフィールドとして「ESDを体験的に学ぶ」、1泊2日のキャンプです。企画立案の段階から当日の運営までを学生の手で行い、今年度で第5回を迎えました。今年度は「防災」をテーマとして取り上げ、大学周辺の地域のフィールドワークや、防災マップを作成する活動などを行いました。自分の足で歩いて「地域を見つめる目」を獲得し、防災に対する関心を高め、防災への取り組みに対する当事者意識の獲得を狙いとしました。毎年このように一つのテーマを設定し、子どもたちと共に持続可能な社会とは何かを考え、またその社会づくりの担い手としての意識を育てています。私はこの活動に3年間継続して関わり、ESDの観点からこの企画を創り上げています。

『ESD実践勉強会』とは、学生へのESDのさらなる普及とユース世代のネットワーク形成に寄与することを目的とし、昨年度立ち上げた事業です。行政や大学主導のプログラムではなく、学生が主体となって企画立案を行っているという点が評価され、2年目を迎えました。大学内にとどまらず、全国でESD・ユネスコ活動に取り組む幅広い団体が参加し、つながりを築くことができました。昨年度はアフリカ開発経済学をテーマとしたESDアクティビティや、野外活動を通じた宿泊型ESD研修会を実施しました。私は今年度この事業の代表として関わり、さらに広いユース世代との活動交流を行い、事業を発展させたいと考えています。

○「奈良ESDコンソーシアム」 <http://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/>

○「奈良教育大学ユネスコクラブ」 <http://nueunescoclub.web.fc2.com/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思えますか？

私は今後のESD活動について、以下の2つの展望を持っています。1つ目は、ESD実践勉強会の事業拡大です。ESD実践勉強会は昨年度立ち上げた事業で、奈良教育大学ほか、全国でESD・ユネスコ活動に取り組む様々な団体からの参加をもって開催することができました。今年度はその規模をより拡大し、より広いユース世代との活動交流を行い、ESDを共に学び実践する者のプラットフォームづくりをしたいと考えています。この事業を通して、ESDをより多く学生に普及させ、そしてESDに取り組む実践者の視野を広げ、ESDを発展させていきたいと考えています。2つ目は、自分自身の活動の分野を広げることです。私は今まで、環境や防災、文化遺産などを切り口にESDを探求し実践してきました。しかし、ESDについて学ぶ中で、他の分野を開拓してESDの視野をさらに広げたいと思い、農山村地域における地域おこしに関心を持つようになりました。兵庫県の農山村地域の観光協会と連携して、現地の人々と関わりながら、地域活性化及び地域の特色や伝統文化の発信に取り組んでいます。

私は将来教員を志しています。学生時代に培ったESDの学びを生かして、次世代を担う子どもたちにESDを実践していきたいと考えています。そのために学生時代にESDを実践している様々な人と出会い、自らの視野を広げ、ESDを探求し続けたいと思っています。